

立山山麓温泉開発株式会社 役員名簿・総会一覧

・ 役員の在任期間（平成9年12月～平成29年12月）

役職 年号	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
代表取締役	高尾 昌明	高尾 昌明	平本 芳光	平本 芳光	平本 芳光	高尾 道明	高尾 道明
取 締 役	平本 芳光	平本 芳光	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫	平本 芳光	平本 芳光
取 締 役	平井 建夫	平井 建夫	千沢 満	丸山 浩	丸山 浩	平井 建夫	平井 建夫
取 締 役	千沢 満	千沢 満	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	丸山 浩	丸山 浩
取 締 役	舟橋 清	舟橋 清	石田 正己	石田 正己	石田 正己	石田 正己	石田 正己
取 締 役			平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦
取 締 役			宮本 梅則	宮本 梅則	宮本 梅則	宮本 梅則	
監 査 役	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文
監 査 役	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝
事務局 長	米井 修	米井 修	米井 修	米井 修	米井 修	米井 修	米井 修
非常勤職員				岡本外喜男	岡本外喜男	岡本外喜男	岡本外喜男

役職 年号	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
代表取締役	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明
取 締 役	平本 芳光	平本 芳光	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫
取 締 役	平井 建夫	平井 建夫	土肥 康義	土肥 康義	土肥 康義	土肥 康義	福田 憲
取 締 役	丸山 浩	土肥 康義	石田 正己	石田 正己	石田 正己	石田 正己	石田 正己
取 締 役	石田 正己	石田 正己	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦
取 締 役	平田 昌邦	平田 昌邦					
監 査 役	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文
監 査 役	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝
事務局 長	横山 護	横山 護	横山 護	横山 護	横山 護	横山 護	横山 護
非常勤職員	岡本外喜男	岡本外喜男	岡本外喜男	岡本外喜男	岡本外喜男	長澤 正臣	長澤 正臣
非常勤職員	長澤 正臣	長澤 正臣	長澤 正臣	長澤 正臣	長澤 正臣		

役職 年号	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
代表取締役	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明	高尾 道明
取 締 役	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫	平井 建夫
取 締 役	石田 勉	石田 勉	石田 勉	石田 勉	石田 勉	石田 勉	石田 勉
取 締 役	石田 正己	石田 正己	石田 正己	石田 正己	石田 正己	石田 正己	石田 正己
取 締 役	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦	平田 昌邦
監 査 役	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文	五十嶋博文
監 査 役	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝	石本 利勝
事務局 長	横山 護	横山 護	横山 護	横山 護	横山 護	横山 護	横山 護
非常勤職員	長澤 正臣	長澤 正臣	長澤 正臣	長澤 正臣	長澤 正臣	長澤 正臣	長澤 正臣
非常勤職員							石田 新一

・役員役職（平成27年～平成29年）

代表取締役	高 尾 道 明
専務取締役	平 井 建 夫
常務取締役	石 田 勉
取 締 役	石 田 正 己
取 締 役	平 田 昌 邦
監 査 役	五十嶋 博 文
監 査 役	石 本 勝 利
事 務 局 長	横 山 護
非常勤職員	長 澤 正 臣

・各年の総会期日（決算報告・協議事項等）

第 1 回定時株主総会	平成 9 年 7 月 1 日～平成 9 年 9 月30日
第 2 回定時株主総会	平成 9 年10月 1 日～平成10年 9 月30日
第 3 回定時株主総会	平成10年10月 1 日～平成11年 9 月30日
第 4 回定時株主総会	平成11年10月 1 日～平成12年 9 月30日
第 5 回定時株主総会	平成12年10月 1 日～平成13年 9 月30日
第 6 回定時株主総会	平成13年10月 1 日～平成14年 9 月30日
第 7 回定時株主総会	平成14年10月 1 日～平成15年 9 月30日
第 8 回定時株主総会	平成15年10月 1 日～平成16年 9 月30日
第 9 回定時株主総会	平成16年10月 1 日～平成17年 9 月30日
第10回定時株主総会	平成17年10月 1 日～平成18年 9 月30日
第11回定時株主総会	平成18年10月 1 日～平成19年 9 月30日
第12回定時株主総会	平成19年10月 1 日～平成20年 9 月30日
第13回定時株主総会	平成20年10月 1 日～平成21年 9 月30日
第14回定時株主総会	平成21年10月 1 日～平成22年 9 月30日
第15回定時株主総会	平成22年10月 1 日～平成23年 9 月30日
第16回定時株主総会	平成23年10月 1 日～平成24年 9 月30日
第17回定時株主総会	平成24年10月 1 日～平成25年 9 月30日
第18回定時株主総会	平成25年10月 1 日～平成26年 9 月30日
第19回定時株主総会	平成26年10月 1 日～平成27年 9 月30日
第20回定時株主総会	平成27年10月 1 日～平成28年 9 月30日
第21回定時株主総会	平成28年10月 1 日～平成29年 9 月30日

工 事 概 要

I. 工事概要

- I-1. 工事名称 立山山麓温泉掘削工事
 I-2. 工事場所 上新川郡大山町原字尊谷割9の3
 I-3. 工事期間 自 平成10年4月1日
 至 平成10年6月20日

I-4. 工事内容	第1段目	第2段目	第3段目
掘削孔径	17-1/2" (444.5mm)	12-1/4" (311.2mm)	8-1/2" (215.9mm)
掘削深度	0.00~44.0m	55.66~600.0m	600.0~1215.0m
ケーシングパイプ規格	14" SGP	9-5/8" API(J-55-36#)	7" API(J-55-23#)
ケーシングパイプ挿入深度	0.00~44.0m	0.00~600.0m	580.00~812.6m
ストレーナーパイプ挿入深度			821.6~1205.2m
他	フルホールセメンチング	フルホールセメンチング	

- ・孔内検層 第1回 4月27日 (0~600m) 電気検層・温度検層
 第2回 5月18日 (0~1200m) 電気検層・温度検層・泥水検層
 - ・地質サンプル カッティングス採取 10m毎
 - ・揚湯試験 段階揚湯試験、水位回復試験、連続揚湯試験
- I-5. 施主 立山山麓温泉開発株式会社
 代表取締役社長 高尾昌明
- I-6. 施工 株式会社ヤマシタ
 富山市上八日町22-1
 工事責任者 福山邦夫

II. 地形・地質概要

§地質

大山町及び周辺に分布する地質は大きく第四紀堆積層、新第三紀堆積層、白亜紀末から古代三紀火成岩類、中生界、中生代以前の火成岩類・変成岩類に区分される。

以下地質反例（記号を含む）を年代別に示す。（図Ⅱ-1）

第 四 紀：主として常願寺川沿いに分布する現世沖積層

河床堆積物 (Rr)、砂礫 (Sg)、崖錘・崩積土・標堆積 (C1)
 低位段丘 (g1)、立山火山岩 (新期安山岩 Ya)

中 新 世：富山平野の外縁に沿う帯状に分布する黒瀬谷階の堆積岩

礫岩・砂岩・泥岩の互層 (Kscg)、安山岩質溶岩・安山岩質凝灰角礫岩 (Ka)

新 第 三 紀：平野の外縁にあって、これを取囲む形で分布する岩稻階の堆積岩

安山岩質溶岩・安山岩質角礫凝灰岩 (la)

白 亜 紀：平野の外縁に沿って帯状に分布する跡津川階の堆積岩

礫岩・砂岩・頁岩 (Talt1)、礫岩 (Tcg1)

ジュラ紀：主として常願寺川の南東側に分布する長棟川階の堆積層

礫岩・砂岩・頁岩 (Talt2)

古代三紀—中生代：地形的高所に広く分布する飛騨新期及び古期深成岩類

花崗岩類 (Grn 新期)、花崗岩類 (Gro 古期)

中生代以前：中期中生代以前に作られた飛騨変成岩類で多量の石灰質岩とミグマタイトを伴うことが特徴

晶質石灰岩・石灰質片麻岩 (Hgc)
 砂泥質片麻岩・石英・長石類片麻岩 (Hgs)
 塩基性片麻岩・角閃岩 (Hgb)

温泉掘削ポイント位置図 (50,000分の1)

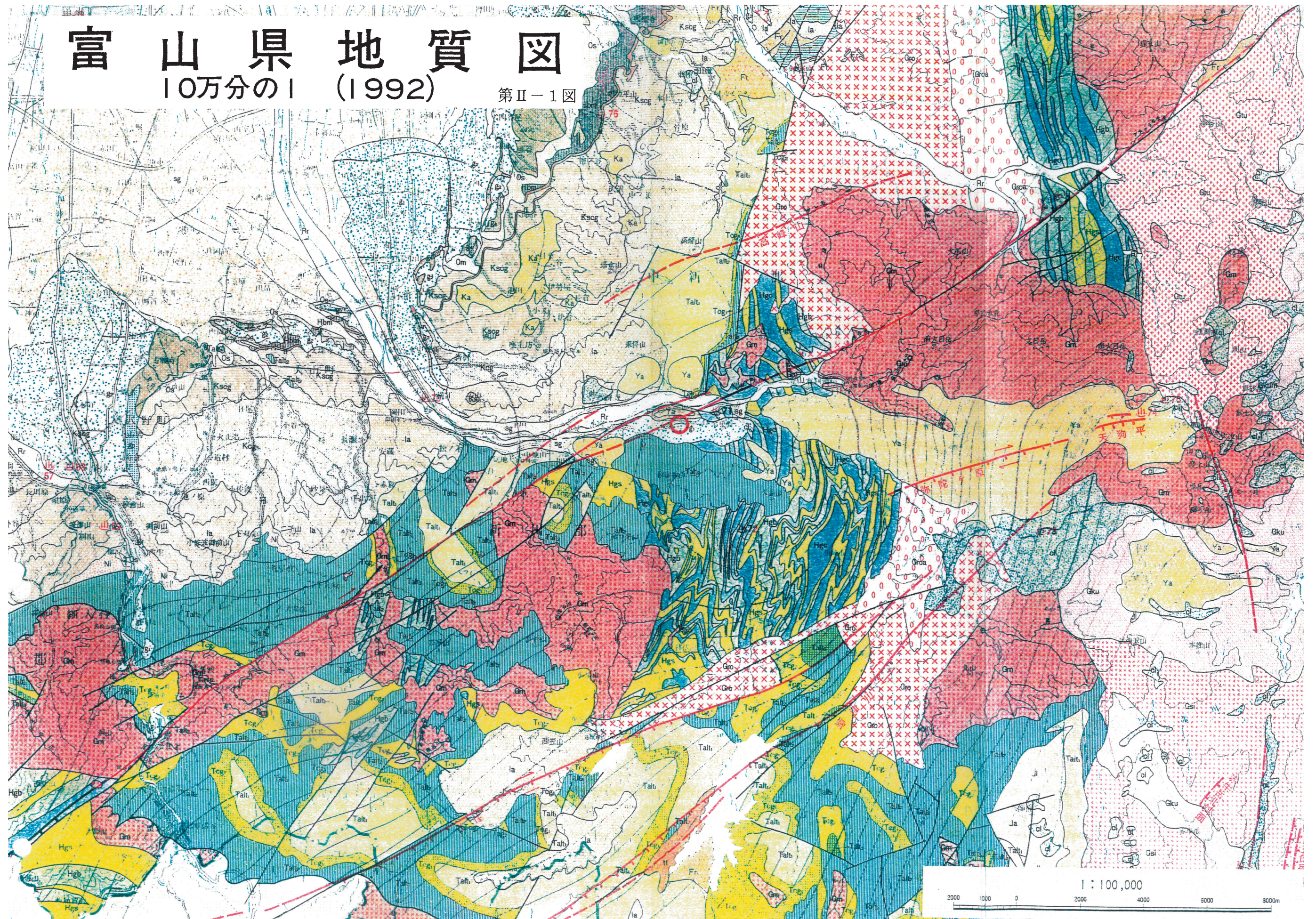
第I-1図



富山県地質図

10万分の1 (1992)

第Ⅱ-1図



本地域を含む周辺の地質概要は上位からおよそ次のような分布状況を呈するものと予想される。これを別途地質柱状図に示す。

表土層（主として腐蝕土）	0～ 3m
沖積層（砂・礫層・未固結及び半固結）	3～200m
跡津川層・長棟川層（礫岩・砂岩・頁岩硬質）	200～350m
飛驒変成岩類（石灰岩・砂泥質片麻岩・石英片麻岩類）	350m以深

本地域は常岩寺川上流にある与四兵衛山南山麓の極楽坂に位置し、北は来拝山の山岳部で、また南は極楽坂山山岳部等に挟在された比較的平坦な崖錘堆積層上にある。また試錐地点は、県道立山線支線の極楽坂ホテル第一荘のそばにある。

本地域は飛驒変成岩類から白亜紀及び新第三紀前記の古い地層が広く分布する中に小規模な第四紀安山岩が点在する。

試錐地点は、これら第四紀安山岩の間を埋める第四紀堆積層上にある。

温泉を支配すると考えられる主な断層は、略北東～南西系の走向を有する牛首活断層であるがその傾斜は一部では東南方向、また他の部分では北西方向をもつ複傾斜構造とみられる。その外、本活断層に斜交する略南～北系の潜在断層の存在も予想される。

Ⅲ．掘削工事

Ⅲ－１．工事経過

掘削工事及び孔内試験（検層、揚湯試験）は掘削工事实績に示すように、平成10年4月1日に掘削を開始、平成10年5月31日掘削深度1,215mで掘止めとし、7"ケーシングパイプ挿入後揚湯試験を行って平成10年6月20日に全工事を終了した。

1) 着工準備

平成10年3月26日～平成10年3月29日

2) 機械搬入及び設営作業

平成10年3月30日～平成10年4月10日

3) 掘削工事

平成10年4月1日～平成10年4月2日 17-1/2" (0.00～44.0m)

平成10年4月11日～平成10年4月26日 12-1/4" (44.0～600.0m)

平成10年5月8日～平成10年5月27日 8-1/2" (600.0～1215m)

4) 坑内検層（電気・温度）

第1回 平成10年4月27日 (0～600m)

第2回 平成10年5月18日 (600～1200m)

5) ケーシングパイプ挿入

平成10年4月2日 14"SGP 0.0～ 44.0m

平成10年4月27日 9-5/8"API 0.0～ 600.0m

平成10年5月20日 7"API(CP 及びストレーナー P) 580.0～1215.0m

6) 揚湯試験

平成10年6月1日～平成10年6月10日

7) 撤収作業

平成10年6月11日～平成10年6月25日

工 事 経 過 表

項 目	期 間	要日数
基地造成	平成10年 3 月26日～平成10年 3 月29日	4
搬入・組立・準備	平成10年 3 月30日～平成10年 4 月 9 日	11
17-1/2"掘削（0～44.0m）	平成10年 4 月 1 日～平成10年 4 月 1 日	1
14"CP 挿入・セメンチング	平成10年 4 月 2 日～平成10年 4 月 2 日	1
12-1/4"（44.0～600.0m）	平成10年 4 月11日～平成10年 4 月26日	16
坑内検層・9-5/8"CP 挿入・セメンチング	平成10年 4 月27日～平成10年 4 月30日	30
8-1/2"掘削（600.0～1215m）	平成10年 5 月 8 日～平成10年 5 月27日	20
坑内検層・7"CP 挿入	平成10年 5 月18日～平成10年 5 月21日	4
坑内洗浄	平成10年 5 月22日～平成10年 5 月31日	10
揚湯試験	平成10年 6 月 1 日～平成10年 6 月10日	10
解体・撤去・修復作業	平成10年 6 月11日～平成10年 6 月25日	15

Ⅲ－２．掘削順序

- ①基地整地、櫓基礎打込み、廃泥ピット掘削
- ②機械搬入、櫓組立、機材据付、孫井戸掘削、掘削準備
- ③口切り、エアーハンマーにより、44.0mまで掘削
- ④14"（355.6mm）SGP ガイドパイプ挿入
- ⑤12-1/4"（311.2mm）トリコンビットで600.0mまで掘削
- ⑥第1回温度及び電気検層
- ⑦9-5/8"（243.9mm）API ケーシング挿入
- ⑧フルホールセメンチング
- ⑨8-1/2"（215.9mm）トリコンビットで1,215mまで掘削
- ⑩第2回温度及び電気検層（坑底温度59℃）
- ⑪7"（178.8mm）ケーシングパイプ及びストレーナー580.0～1,215mまで挿入
- ⑫ロッドにて坑内洗浄（清水にてウエルクリーナー注入）
- ⑬エアリフトによる揚湯（エア管深度450.8m）
- ⑭水中ポンプによる揚湯試験（段階揚湯試験・連続揚湯試験・水位回復試験）
- ⑮解体、撤去、機材搬出

Ⅲ－３．掘削状況

掘削は、トリコンビット、カラーを接続しこの上にロッド（L=9.0m）を継ぎ足して掘削する。

坑壁保護とカッティングスを排除するため主にベントナイト泥水を循環して掘削した。深度227m付近より飛騨変成岩類硬化著しくバイブレーション多発、回転をあげられず掘削は難航した。これらの地層に対しては、濃泥質としかつテルポリマー及び泥剤 TK-60等を追加してスライムの排除とロッド摩擦力ならびにバイブレーション低減を図りながら掘削した。

本坑の全掘削工程を通じ岩質硬軟の変化が著しく終始バイブレーションに悩まされ、ロッドの回転数を上げることができなかった。

Ⅲ－４．検尺

掘削終了後、ドリルロッド及びドリルカラーを坑内から引き揚げその延長を測定し掘削深度を決定した。

Ⅲ－５．坑内検層

自記連続記録式検層機を用いて坑内深度を44.0m～600.0mまでと、600.0m～1215.0mまでの２段階に分け、それぞれ温度、自然電位（SP）、及び比抵抗（ショート及びロング）を測定した。また最終段において600.0～1215.0mまで、泥水検層を追加実施した。（検層結果は後述の坑内検層を参照）

Ⅲ－６．ケーシング・ストレーナーの挿入

１段目：0～44.0m ガイドパイプとして14"STPG 管を溶接により接続し挿入した。

２段目：0～600.0m 9-5/8"ケーシングには API 管をネジ締めにより接続挿入した。

以上のケーシングはフルホールセメンティングにより固定された。

３段目：600.0～1215.0m 7"ケーシングはその上部にベルカラーを付し、落とし込みにより挿入した。ケーシングの構成は、812.6m～1205.2m間をストレーナー管としその下部にはメクラケーシング１本（9.83m）が接続されている。

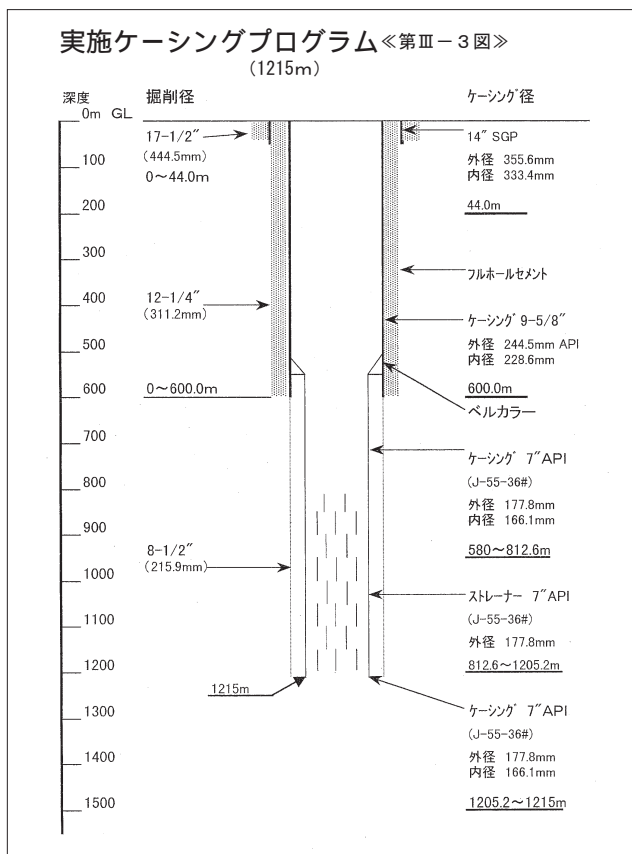
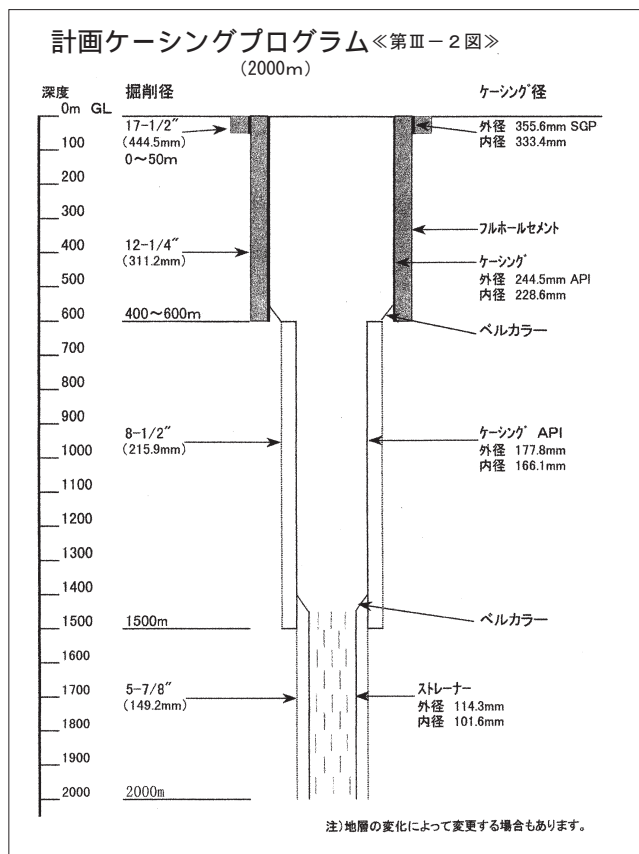
Ⅲ－７．坑内洗浄

坑内洗浄のためドリルロッドを坑底近くまで挿入し清水により坑内洗浄を行った。その後、ウェルクリーナーを注入し24時間放置した後、再度清水にて洗浄した。

Ⅲ－８．揚湯試験

ロッドを揚湯管としてその中に EQ サイズのエア管を450.8mまで挿入しエアリフトによる揚湯試験を実施した。その後、従来の水中ポンプによる揚湯試験に切り換えた。

その結果を別紙測定表に示す。



温度検層結果表

測定次数	第 2 回	測定日時	平成10年 5 月18日				
掘削深度	1200m	測定区間	0～1200m				
深度 m	温度℃	深度 m	温度℃	深度 m	温度℃	深度 m	温度℃
0	20.0	380	29.9	760	42.1	1140	55.1
10	19.9	390	30.5	770	42.2	1150	55.0
20	20.1	400	30.7	780	42.6	1160	55.2
30	20.5	410	30.8	790	42.7	1170	56.1
40	20.9	420	31.0	800	42.9	1180	56.3
50	24.8	430	31.2	810	43.0	1190	56.7
60	24.6	440	31.5	820	43.1	1200	57.7
70	23.9	450	31.8	830	43.6	1210	58.1
80	24.6	460	32.4	840	43.6	1215	59.2
90	24.5	470	32.8	850	44.1		
100	24.4	480	32.9	860	44.6		
110	24.3	490	33.5	870	44.6		
120	24.1	500	33.6	880	44.9		
130	23.8	510	33.9	890	45.3		
140	23.6	520	34.5	900	45.4		
150	23.6	530	34.7	910	45.5		
160	23.6	540	35.5	920	45.9		
170	23.8	550	35.5	930	46.2		
180	23.9	560	36.1	940	46.5		
190	24.6	570	35.9	950	46.8		
200	24.5	580	36.1	960	47.7		
210	24.9	590	36.7	970	47.8		
220	25.1	600	36.8	980	47.8		
230	25.3	610	37.2	990	48.0		
240	25.5	620	37.7	1000	48.3		
250	25.7	630	37.8	1010	48.7		
260	26.0	640	38.5	1020	49.1		
270	26.4	650	38.9	1030	49.9		
280	26.3	660	39.5	1040	49.8		
290	27.4	670	39.6	1050	50.0		
300	27.6	680	39.7	1060	50.5		
310	28.5	690	40.3	1070	51.2		
320	28.8	700	40.4	1080	51.5		
330	29.1	710	40.7	1090	52.0		
340	29.0	720	40.8	1100	52.6		
350	29.2	730	41.3	1110	53.0		
360	29.4	740	41.5	1120	53.3		
370	29.9	750	41.8	1130	53.8		

温泉分析表

※平成10年7月7日当時



衛研 第 53 号

温泉分析書

分析依頼者 富山県上新川郡大山町本宮1番17号
立山山麓温泉開発株式会社

1. 品 名 さく井水(深さ 1215m)

(1) 湧出場所 富山県上新川郡大山町原字尊谷割9の3

(2) 採水年月日 平成10年 6月10日

2. 試験目的 鉱泉中分析試験

上記について、所定の分析試験を実施した成績は、下記のとおりである。

記

1. 湧出地における調査及び試験成績(平成10年 6月10日)

(1) 揚水量 毎分 110リットル(水中ポンプ 23.3kW)

(2) 泉 温 43.4℃ 湧出地点にて測定(測定時気温 25.0℃)

(3) 外 観 微白濁

(4) 臭 味 無味無臭

(5) 液 性 アルカリ性 (pH 8.79 ガラス電極法)

2. 試験室における試験成績(平成10年 6月11日)

(1) 外 観 微白濁

(2) 液 性 アルカリ性 (pH 8.87 ガラス電極法)

- (3) 比 重 1.0010 (20℃において測定)
(4) 蒸発残留物 971 ミリグラム(検水1キログラム中)
(5) 含有成分及びその分量 (同上)ただし、浮遊物は除く

成 分	ミリグラム	ミリパー	ミリパー%
陽イオン			
ナトリウムイオン [Na ⁺]	355	15.44	97.79
カリウムイオン [K ⁺]	2.68	0.07	0.44
リチウムイオン [Li ⁺]	0.42	0.06	0.38
アンモニウムイオン [NH ₄ ⁺]	0.20	0.01	0.06
カルシウムイオン [Ca ²⁺]	1.96	0.10	0.64
マグネシウムイオン [Mg ²⁺]	0.38	0.03	0.19
鉄(II)イオン [Fe ²⁺]	0.14	0.01	0.06
アルミニウムイオン [Al ³⁺]	0.64	0.07	0.44
陽イオン計	361	15.79	100.00
陰イオン			
塩素イオン [Cl ⁻]	42.32	1.19	7.54
フッ素イオン [F ⁻]	27.49	1.45	9.18
硫酸イオン [SO ₄ ²⁻]	30.21	0.63	3.99
炭酸水素イオン [HCO ₃ ⁻]	679.3	11.13	70.49
炭酸イオン [CO ₃ ²⁻]	36.4	1.21	7.66
メタケイ酸水素イオン [HSiO ₃ ⁻]	3.1	0.04	0.25
メタボウ酸イオン [BO ₂ ⁻]	5.9	0.14	0.89
陰イオン計	824.7	15.79	100.00
非解離成分			

メタケイ酸 [H ₂ SiO ₃]	25.5	0.33ミリモル
メタボウ酸 [HBO ₂]	16.4	0.37ミリモル
非解離成分計	41.9	0.70ミリモル
溶存物質計	1228	
溶存ガス成分		
遊離二酸化炭素 [CO ₂]	1.9	0.04ミリモル
溶存ガス成分計	1.9	0.04ミリモル
成分総計	1230	

その他 微量成分 マンガン 0.012mg/kg

上記分析試験の成績によれば、本さく井水は温泉法(昭和23年法律第125号)第2条に規定する温泉の規格に適合し、その泉質はナトリウム-炭酸水素塩泉(低張性・アルカリ性・高温泉)に属するものと認められる。

分析者 富山県衛生研究所
副主幹研究員 高柳信孝

本温泉の泉質に基づいて、主要な適応症及び禁忌症の概要を掲げると次のとおりである。

1. 浴用の禁忌症・適応症

(1) 温泉の一般的禁忌症

急性疾患(特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(特に初期と末期)

(2) 療養泉の一般的適応症

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進

(3) 泉質別適応症

きりきず、やけど、慢性皮膚病

2. 浴用上の注意事項

次の疾患については、原則として高温浴(摂氏42度以上)を禁忌とする。
高度の動脈硬化症、高血圧症、心臓病

平成10年 7月 7日

富山県衛生研究所長



温 泉 分 析 書

1. 申 請 者 住所 富山県富山市原10-3
氏名 立山山麓温泉株式会社
2. 源泉名及び湧出地 源泉名 立山山麓温泉
湧出地 富山県富山市原字尊谷9-6
3. 湧出地における調査及び試験成績
(イ) 調査及び試験者 富山県衛生研究所 村元達也
(ロ) 調査及び試験年月日 平成27年 1月 6 日
(ハ) 泉温 39.3 ℃ (調査時における気温 7.6 ℃)
(ニ) 湧出量 35.7 L/分 (動力揚湯)
(ホ) 知覚的試験 無色透明、無味無臭
(ヘ) pH値 8.82 (ガラス電極法)
(ト) 電気伝導率 0.157 S/m (20℃)
(チ) ラドン (Rn) 未測定
4. 試験室における試験成績
(イ) 試験者 富山県衛生研究所 村元達也
(ロ) 分析終了年月日 平成27年 1月14日
(ハ) 知覚的試験 無色透明、無味無臭
(ニ) 密度 1.0019 g/cm³ (20℃/ 4℃)
(ホ) pH濃度 8.93 (ガラス電極法)
(ヘ) 蒸発残留物 872 mg/kg (110℃)
5. 試料 1 kg中の成分・分量及び組成
(イ) 陽イオン

成 分	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
リチウムイオン (Li ⁺)	0.47	0.07	0.44
ナトリウムイオン (Na ⁺)	364	15.83	98.81
カリウムイオン (K ⁺)	1.56	0.04	0.25
アンモニウムイオン (NH ₄ ⁺)	0.53	0.03	0.19
マグネシウムイオン (Mg ²⁺)	0.13	0.01	0.06
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	0.88	0.04	0.25
陽 イ オ ン 計	367.57	16.02	100.00

(ロ) 陰イオン

成 分	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
ふっ化物イオン (F ⁻)	29.9	1.57	9.91
塩化物イオン (Cl ⁻)	45.4	1.28	8.08
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	20.8	0.43	2.71
炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	694	11.37	71.78
炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	30.0	1.00	6.31
メタけい酸改組イオン (HSiO ₃ ⁻)	4.75	0.06	0.38
メタほう酸イオン (BO ₂ ⁻)	5.45	0.13	0.82
陰 イ オ ン 計	830.30	15.84	100.00

(ハ) 遊離成分

非 解 離 成 分	ミリグラム	ミリモル
メタけい酸 (H ₂ SiO ₃)	36.4	0.47
メタほう酸 (HBO ₂)	14.1	0.32
非 解 離 成 分 計	50.5	0.79

溶存物質計 (ガス性のものを除く) 1.248 g/kg

溶 存 ガ ス 成 分	ミリグラム	ミリモル
遊離二酸化炭素 (CO ₂)	2.44	0.06
溶 存 ガ ス 成 分 計	2.44	0.06

成分総計 1.251 g/kg

(ニ) その他微量成分 (mg/kg)

総ひ素	0.02
銅	0.01未満
鉛	0.01未満
総水銀	0.0005未満

6. 泉質 ナトリウム-炭酸水素塩泉 (低張性・アルカリ性・温泉)
7. 禁忌症、適応症等 温泉分析書別表中 5 に記載する。

平成27年 1月20日
富山県射水市中太閤山17-1
富山県衛生研究所長 佐多徹太郎 ㊞
(登録番号：富山-01)

温泉分析書別表

1. 源 泉 地 立山山麓温泉
2. 温 泉 所 在 地 富山県富山市原字尊谷9-6
3. 温泉分析申請書 立山山麓温泉株式会社
4. 泉 質 ナトリウム－炭酸水素塩泉（低張性・アルカリ性・温泉）
5. 療養泉分類の泉質に基づく禁忌症、適応症等は次のとおりである。

浴用の禁忌症

- (1) 一般的禁忌症 病気の活動期（特に熱のあるとき）、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期
- (2) 泉質別禁忌症 なし

浴用の適応症

- (1) 一般的適応症 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下（胃がもたれる、腸にガスがたまるなど）、軽症高血圧、耐糖能異常（糖尿病）、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、自律神経不安定症、ストレスによる諸症状（睡眠障害、うつ状態など）、病後回復、健康増進
- (2) 泉質別適応症 きりきず、末梢循環障害、冷え性、皮膚乾燥症

浴用の方法及び注意

ア. 入浴前の注意

- (ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
- (イ) 過度の疲労時には身体を休めること。
- (ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。
- (エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。
- (オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
- (カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ. 入浴方法

(ア) 入浴温度

高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴はさけること。

(イ) 入浴形態

心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

(ウ) 入浴回数

入浴開始後数日間は、1日当たり1～2回とし、慣れてきたら2～3回まで増やしてもよいこと。

(エ) 入浴時間

入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3～10分程度とし、慣れてきたら15～20分程度まで延長してもよいこと。

ウ. 入浴中の注意

(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。

(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ. 入浴後の注意

(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること（ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質（例えば酸性質や硫黄泉等）や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。）。

(イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯の水分を補給すること。

オ. 湯あたり

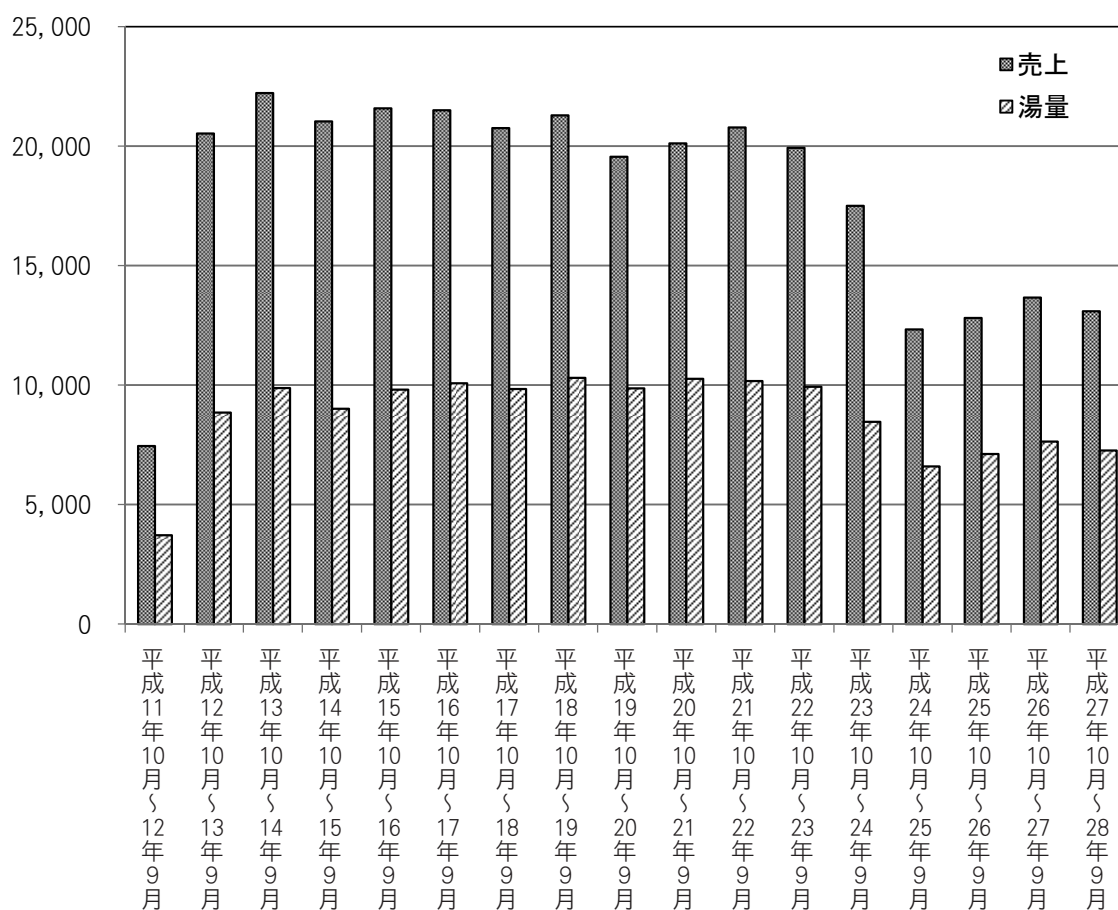
温泉療養開始後おおむね3日～1週間後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ. その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

売上金額と湯量の推移

年 度	売 上 (千円)	湯 量 (t)
平成11年10月～平成12年 9 月	7,460	3,727.82
平成12年10月～平成13年 9 月	20,524	8,848.85
平成13年10月～平成14年 9 月	22,229	9,876.41
平成14年10月～平成15年 9 月	21,032	9,010.41
平成15年10月～平成16年 9 月	21,580	9,814.13
平成16年10月～平成17年 9 月	21,497	10,076.66
平成17年10月～平成18年 9 月	20,760	9,847.62
平成18年10月～平成19年 9 月	21,293	10,313.47
平成19年10月～平成20年 9 月	19,556	9,870.99
平成20年10月～平成21年 9 月	20,112	10,271.90
平成21年10月～平成22年 9 月	20,785	10,174.82
平成22年10月～平成23年 9 月	19,929	9,932.83
平成23年10月～平成24年 9 月	17,499	8,463.78
平成24年10月～平成25年 9 月	12,337	6,605.07
平成25年10月～平成26年 9 月	12,818	7,123.83
平成26年10月～平成27年 9 月	13,672	7,639.23
平成27年10月～平成28年 9 月	13,098	7,263.16



立山山麓温泉 動水位変移表

リスト番号	測定日	動水位 m	周波数 Hz	揚湯量 ℓ/min	湯温 °C	電圧 V	電流 A
1	2001年 8 月 2 日	-281.6	53.1	23.3	40.0	176.8	48.1
2	2002年 8 月10日	-368.6	58.6	32.0	38.6	194.0	59.0
3	2002年12月 9 日	-323.9	58.0	34.4		194.5	53.5
4	2003年 1 月 7 日	-335.8	58.0	32.0		192.7	53.9
5	2003年 4 月25日	-297.0			32.0	199.1	53.9
6	2003年 8 月21日	-330.0	60.0	32.0	37.9	199.1	53.2
7	2005年 2 月11日	-293.0	58.5	24.0	35.0	199.1	50.0
8	2005年 5 月25日	-387.0	45.5	32.0	38.2	152.8	37.0
9	2005年 7 月15日	-394.2	45.0	30.5	38.2	152.3	38.5
10	2006年 1 月12日	-389.0	45.3	29.3	37.7	152.3	31.3
11	2006年 6 月 7 日	-385.0	45.0	29.7	37.9	144.9	29.8
12	2007年 5 月16日	-386.0	40.0	279	36.8	134.9	30.0
13	2007年11月30日	-387.0	40.3	32.8	37.3	134.4	31.5
14	2008年 5 月22日	-431.0	41.0	30.0	38.1	138.6	32.2
15	2008年12月25日	-465.0	40.0	35.7	39.6	134.2	34.9
16	2009年 4 月15日	-476.0	40.0	30.0	37.2	134.0	35.4
17	2009年 5 月27日	-470.0	40.0	38.2	39.2	133.0	35.4
18	2009年11月18日	-493.0	36.4	36.8	38.8	121.4	35.1
19	2010年 5 月31日	-481.0	40.0	41.2	38.4	124.0	35.4
20	2010年11月26日	-535.0	40.5	31.0	38.5	135.0	37.7
21	2010年12月16日	-536.5	40.0	32.0	38.6	134.7	37.7
22	2011年 4 月11日	-486.8	40.0	41.8	39.5	134.0	38.4
23	2011年12月19日	-491.1	40.0	40.8	39.4	134.0	37.4
24	2012年 4 月27日	-490.7	40.5	42.9	38.6	134.0	39.4
25	2012年 6 月 6 日	-499.6	40.0	40.6	40.6	133.1	37.6
26	2012年11月26日	-512.0	40.0	37.0	39.8	134.0	40.7
27	2013年 8 月30日	-515.0	40.0	35.0	38.6	133.2	40.2
28	2014年 5 月 8 日	-613.3	33.0	29.9	41.0	111.6	41.6
29	2014年 5 月14日	-561.5	33.0	31.2	40.0	111.6	36.0
30	2014年 7 月15日	-520.6	33.0	32.4	38.6	111.7	36.0
31	2014年 9 月25日	-495.8	33.0	32.0	39.1	109.9	35.1
32	2015年 2 月 5 日	-516.5	33.0	34.9	40.4	109.9	36.6
33	2015年 6 月23日	-524.2	33.0	35.1	39.7	111.6	36.4
34	2015年11月11日	-484.9	21.0	30.3	38.2	72.1	48.0
35	2016年 5 月 9 日	-482.5	21.0	31.2	39.2	70.4	46.5
36	2016年11月21日	-380.5	21.0	32.6	31.0	70.3	41.5

復旧直後

